

令和5年度食育推進一校一実践 参考事例 掲載学校

	掲載学校	ページ
1	南アルプス市立芦安小学校	1～3
2	甲斐市立竜王中学校	4～5
3	北杜市立白州中学校	6～7
4	甲州市立井尻小学校	8～9
5	笛吹市立石和南小学校	10～11
6	笛吹市立御坂東小学校	12～13
7	早川町立早川中学校	14～15
8	南部町立富沢小学校	16～18
9	上野原市立上野原西中学校	19～21

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	南アルプス市立 芦安小学校	校 長 名	根津 盛吾
-------	---------------	-------	-------

児童生徒の課題

本校は児童26名の小規模校である。本年度の新体力テストの調査から、睡眠時間では8時間未満の割合がおおよそ3割、朝食を毎日食べていない児童も1割弱いることがわかった。保健室来室は多くないものの、児童の会話から、「夜寝るのが遅かった。」「朝起きる時間が遅くて朝食や朝の身支度（学校の支度、洗顔、歯みがきなど）の時間がなかった。」という声が聞こえている。

令和5年新体力テストより

朝食摂取状況：毎日食べる 90.4% 時々食べない 9.6%

睡眠時間 8時間以上 69.2% 6～8時間 24.6% 6時間未満 6.2%

実 践 名	「生活リズムを整えよう ～はやね はやおき あさごはん～」
目 標	十分な睡眠時間を確保し、生活リズムを整える。
目標指標と数値	毎日の朝食摂取率を95%以上にする。 睡眠時間の8時間以上を80%以上にする。
実施予定日 ・実施予定期間	2学期～3学期
対 象	小学生 全校
指導場面	全校朝の会、給食の時間、学級活動の時間など
指 導 者	学級担任、養護教諭（給食主任）、体育主任など
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・体育の1校1実践と連携し、指導を行う。 ・長期休業中、生活リズムチェック表を記録し、意識を保つとともに児童の実態を把握する。結果についてはデータをまとめ、ほけんだよりで児童や保護者に向けて情報を発信する。 ・朝の会の健康観察時、本校は健康チェックだけでなく朝食の有無やハンカチなど持ち物の確認などを行っている。朝食チェックについては継続して確認をして、児童の様子を把握する。 ・「はやね はやおき あさごはん」について、それぞれのパートに分けて、大切さや効果などを指導する。事前事後でアンケートを実施し、児童の実態を把握する。 	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中と冬季休業の生活チェック表を比較する。 ・日々の健康観察のチェック、状況確認をする。 ・「はやね はやおき あさごはん」を実践する事前事後アンケートから結果を分析する。

(作成者名 長谷部 裕紀子

校務分掌等 給食主任・養護教諭)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	南アルプス市立 芦安小学校	校 長 名	根津 盛吾
-------	---------------	-------	-------

実 践 名	「生活リズムを整えよう ～はやね はやおき あさごはん～」
目 標	健康的に過ごすためには、規則正しい生活が大切だということがわかる。 睡眠、朝食などの大切さがわかる。
目標指標・数値	・ 毎日の朝食摂取率を 95%以上にする。 ・ 睡眠時間が8時間以上になる児童を80%以上にする。 (目安として、就寝時刻を21時～22時台。起床時刻は6時～7時。)

実践後の数値 (評価方法)	<p><u>夏休み生活リズム調査</u> (※夏休みは未記録児童が多く、データは参考程度) 就寝時刻：～22時台 (19%) 23時以降 (4%) 起床時刻：～7時 (41.7%) 7時以降 (58.4%) 朝食摂取：接種率 100% (※3つの色をバランスよく摂取できた児童 1週間のうち4日以上：58.3% 1週間のうち4日以下：41.7%)</p> <p><u>冬休み生活リズム調査</u> 就寝時刻：～22時台 (83.4%) 23時以降 (16.6%) 起床時刻：～7時 (20.8%) 7時以降 (79.2%) 朝食摂取：毎日摂取した児童 (91.7%) 時々、未摂取だった児童 (8.3%)</p>
実施日 ・実施期間	12月18日 (月)
対 象	小学生 全校
指導場面	学級活動
指 導 者	養護教諭 (給食主任)、学級担任
具 体 的 な 内 容	
<p>1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏休み生活リズムチェック表 記録表と合わせて、(公財)日本学校保健会児童生徒の生活習慣啓発委員会が作成した「学校と家庭で育む子どもの生活習慣」冊子を配布。(保護者用と児童用) <p>2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> 12月に全校児童を対象に『健康的な生活を過ごそう～生活リズム～』をテーマに指導。 本校は全校児童が少ないため、全校一斉で実施。高学年のもつ知識も生かしつつ、低学年のサポートが出来るよう異学年でグループを作成しグループワークを取り入れた。 冬休み中の生活リズムチェック表 <p>3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活リズム取り組み表の集計 	

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用し視覚教材を作成した。 ・ ICT 資料は、特に低学年の児童において興味関心を引きつけることができた。 ・ 生活リズムは、健康なからだづくりにつながるということを理解してくれた児童がいた。 ・ 2学期末に授業を実践したことで、冬休み生活チェックの意識を高めることができた。 ・ 冬休みのチェック表では、早寝早起きを目標に睡眠リズムを崩すことなく過ごせた児童が若干名だが見られた。学習で伝えたことを、実生活に生かすことができていた。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活リズムチェック表は長期休業を利用して実践したが、長期休業中の生活リズムは普段の生活リズムと一致する児童もいればそうでない児童もいるので、今後は、学校生活に直結する日常の生活リズムの把握を行っていきけるとよい。学校生活の中で取り組むためには、担任の協力や理解が必要となる。生活の記録が負担にならないような方法、短時間で取り組める工夫等を検討していきたい。 ・ 生活リズムの指導内容がマンネリにならないよう、内容含め指導教材の見直しを行っていきたい。 ・ 1年生と6年生では、知識や理解の差がある。夏休みには、朝食摂取の3つの色分け（赤・黄・緑）に挑戦したが、指導不足もあり低学年は難しかった。 ・ 生活リズムチェック表は全校統一の取り組みだったが、発達段階にあった内容や課題を設定できるような工夫、作成を考えていきたい。

(作成者名 長谷部裕紀子 校務分掌等 給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲斐市立竜王中学校	校 長 名	野本 眞二
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

本校では昨年度より、ICT を活用しての生徒の実態把握で課題を捉え、教職員全体で食に関する指導を行っている。普段の給食の様子では残量が比較的多い学年・学級があり、偏食や少食傾向、そして食に対して興味関心の薄い生徒が多い傾向がみられる。生徒が自分たちの食生活に関心をもつ機会を多く設定していきたいと考えている。

実 践 名	『ICT を活用した食生活実態把握と食育～学級活動と委員会活動を通して～』
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した全校食生活アンケートでの実態把握と給食指導を行う。 総合的な学習の時間・生徒会活動（委員会活動）等を通して食について考える機会を持ち、自分の健康を考えしっかり食べる生徒の育成。
目標指標と数値	<p>【活動指標】・ICT を活用した給食指導：各学級1回以上</p> <p>・委員会活動による残量調査：R4 年度1回→R5 年度2回</p> <p>【成果指標】・Google forms 食生活に関するアンケート（抜粋）</p> <p>・「普段給食を残さず食べていますか？」</p> <p>残さず食べている…66,2%, 時々残している…27,7%, ほとんど残している…6,1%</p> <p>〈残さず食べている〉の割合を 66,2%→70%へ+3,8%増加を目標とする。</p> <p>・残量調査 R4 年度 11 月期 115,865g→R5 年度 6・11 月期各 20,000g 減少を目標とする。</p>
実施予定日 ・実施予定期間	令和5年6月～令和6年2月
対 象	全校生徒 1 学年 2 学年 3 学年 計 3 6 6 名
指導場面	特別活動,自立活動（特支），給食時間
指 導 者	学級担任, 学年職員, 学習支援員, 外部講師, 栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>◇ICT を活用した生徒の実態把握と給食指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年：【学級活動】：6月3日～30日にかけて Google forms で作成した食生活アンケートを実施。一人一台端末を用いて、学級活動の時間に各学年のクラスルーム内に設定されたアンケートに回答。 タブレットと大型モニターを使用し、PPT 資料で食に関する指導を行う。事後は指導資料を配付し、学級で内容の振り返りを行う。 <p>1 学年：【学級活動】『成長期の食事について考えよう！』 2 学期予定 2 学年：【学級活動】『よくかんで食べることの効果について』 5 月 3 0 日～6 月 7 日実施 3 学年：【学級活動】『食べ物はどこからくるの？～食糧自給率を考える～』 2 学期予定</p> <p>◇総合・生徒会活動（委員会活動）を通して食について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 【総合】職業講話 3 学年『命をいただく』～山梨のジビエについて知る～ 6 月 2 3 日実施 【生徒会活動】給食委員会による残量調査と片付け調査を実施し、その結果を給食委員会通信として各学級に配布する。（1, 2 学期に各1回） 	
評価方法	アンケート結果の比較,授業観察やワークシートからの見取り

(作成者名 守屋愛子)

校務分掌等 給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲斐市立竜王中学校	校 長 名	野本 眞二
実 践 名	『ICT を活用した食生活実態把握と食育～学級活動と委員会活動を通して～』		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ICT を活用した全校食生活アンケートでの実態把握と給食指導を行う。 総合的な学習の時間・生徒会活動（委員会活動）等を通して食について考える機会を持ち、自分の健康を考えしっかり食べる生徒の育成。 		
目標指標・数値	<p>【活動指標】・ICT を活用した給食指導：各学級1回以上 ・委員会活動による残量調査：R4 年度1回→R5 年度2回</p> <p>【成果指標】・Google forms 食生活に関するアンケート（抜粋） ・「普段給食を残さず食べていますか？」 残さず食べている・・・66,2%，時々残している・・・27,7%，ほとんど残している・・・6,1% 〈残さず食べている〉の割合を66,2%→70%へ+3,8%増加を目標とする。</p> <p>・残量調査 R4 年度11月第3週 115,865g→R5 年度6・11月各 20,000g 減少を目標とする。</p>		
実践後の数値 (評価方法)	<p>【活動指標】・ICT を活用した給食指導： R5 年度1学期中に2学年で1回実施。</p> <p>【成果指標】・googleform 食生活に関するアンケート※年度末に2回目を実施予定</p> <p>【残量調査】5,6月残食率平均2.7%→7月～1月残食率平均 <u>2.3% に減少。</u> 6月第3週合計 57,946g→11月第3週合計 43,965g に減少。</p>		
実施日・実施期間	令和5年4月～令和6年3月		
対 象	全校生徒 1学年 2学年 3学年 計367名		
指導場面	総合的な学習の時間，道徳，特別活動，給食時間		
指 導 者	学級担任，学年職員，学習支援員，外部講師，栄養教諭		
具 体 的 な 内 容			
<p>◇ICT を活用した生徒の実態把握と給食指導</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年：【特別活動】：各学級の学活等の時間を利用して6月3日～30日の期間内に Googleform で作成した食生活アンケートを実施。一人一台端末を用いて、各学年のクラスルーム内に設定されたアンケートに回答した。 タブレットと大型モニターを使用し、PPT 資料で食に関する指導を行った。事後は指導資料を配付し、学級で内容の振り返りを行った。 <p>2学年：【特別活動】『よくかんで食べることの効果について』5月30日～6月7日各クラスで実施 3学年：【特別活動】『受験期の心とからだの変化～受験期の食事について～』1月31日※感染症対策のため紙面配布での指導</p>			
<p>◇総合・生徒会活動（委員会活動）を通して食について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 【総合】職業講話 3学年『命をいただく』～山梨のジビエについて知る～6月23日実施，ジビエ給食（鹿肉カレー）7月14日実施 【生徒会活動】給食委員会による残量調査と片付け調査を実施し，その結果を給食委員会通信として各学級に配布した。 （1，2学期に各1回実施） 			
成 果	<p>学校行事等のため、当初予定した取り組みの延期や変更が必要となったが、一人一台端末を用いての ICT を活用した全校食育アンケートの実施や、生徒会活動等、昨年度よりスタートした活動を継続して実施することができた。食育に関する活動の継続や、命の学習、学級運営の中で食べ残しや片付けについて働きかけることで残量の大幅減少や意識の改善に繋がったのではないかと考える。</p>		
今後の課題	<p>食への興味・関心を高めるための献の工夫や地場産物の活用、生徒会活動による取り組みを継続しつつ、生徒の実態に合わせた手立てを考えていく必要がある。また昨年度行った特別支援学級自立活動の食育の取組が実施出来なかったため、来年度に向けて計画を立てていきたい。</p>		



(様式1 計画書)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	北杜市立 白州中学校	校 長 名	青柳 香
-------	------------	-------	------

児童生徒の課題

本校では、全校一斉のランチルーム形式で給食を実施している。本校の生徒は、全体的によく食べる生徒が多く、一人一人が完食を意識して食べることができ、残食数も平均して0～0.5人分と少ない。しかしながら、和食のメニューの残食が多い傾向があり、特に魚料理を苦手とする生徒が多いと感じる。そのため、改めて和食のよさや魅力に気づき、和食のメニューの残食を減らしていけるようにしていきたい。

実 践 名	和食のよさを味わい、残食0を目指そう！！
目 標	和食の残食数を0に近づける
目標指標と数値	和食の残食0の割合が90%以上
実施予定日 ・実施予定期間	令和5年8月～令和5年12月
対 象	全校生徒
指導場面	給食の時間、家庭科調理実習、各教科の「食」に関する単元
指 導 者	給食主任、栄養教諭、該当教科の教科担任、本校全職員
具 体 的 な 内 容	
①給食センターから出される「給食一口メモ」や「給食だより」を通して、「食」に関する様々な情報を発信する。 ②給食委員会で行事食や日本の伝統料理に関するクイズを出し、和食への興味関心を高める。 ③栄養教諭による月1回の巡回訪問の際に、和食の大切さや魅力、工夫した味付けや調理の仕方等についての話をしてもらう。また、栄養教諭や給食センターと連携し、写真や動画等で調理の様子を紹介してもらう。 ④家庭科の調理実習や各教科の「食」に関する単元の学習を通して、和食のよさや魅力に気づかせる。	
評価方法	・毎日の残食状況のチェック ・給食時の生徒の様子を観察 ・実践後のアンケート

(作成者名：伊藤 美幸

校務分掌等：給食主任

)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	北杜市立 白州中学校	校 長 名	青柳 香
-------	------------	-------	------

実 践 名	和食のよさを味わい、残食0を目指そう！！
目 標	和食の残食数を0に近づける
目標指標・数値	和食の残食0の割合が90%以上
実践後の数値 (評価方法)	給食日数82日間のうち、和食の残食日数が11日 残食日数の割合13.4% (残食0の割合が86.6%)、1回の残食量 平均0.5～1%程度 (評価方法：毎日の給食残量および給食日誌のチェック)
実施日 ・実施期間	令和5年8月～令和5年12月
対 象	全校生徒
指導場面	給食の時間、家庭科調理実習、各教科の「食」に関する単元
指 導 者	給食主任、栄養教諭、該当教科の教科担任、本校全職員
具 体 的 な 内 容	
<p>①給食センターから出される「給食一口メモ」や「給食だより」を通して、「食」に関する様々な情報を発信した。</p> <p>②給食委員会で行事食や日本の伝統料理に関するクイズを出し、和食への興味関心を高めた。</p> <p>③栄養教諭による月1回の巡回訪問の際に、和食料理の魅力や栄養機能など、和食に関する様々な話をしていただいた。また、少しでも食べやすくなるように味付けや調理の仕方を工夫していただいた。<u>(アジのメンチカツ、白身魚のパン粉焼き、さばのしょうが煮、いわしのトマト煮)</u> など</p> <p>④家庭科の調理実習や各教科の「食」に関する単元の学習を通して、和食のよさや魅力に気づかせることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生家庭科 調理実習 「郷土料理ほうとう作り」 ・1年生英語科 日本の伝統料理の紹介 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスの担任を中心とした日常的な指導や栄養教諭との連携により、和食の残食量を減らすことができた。 ・給食だよりや給食委員会による「給食クイズ」等で、和食への関心を高めることができた。
今後の課題	全体的に残食量は少ないが、適切な量を食べられないあるいは食べない生徒が数名いる。和食に限らず、全体的に給食の残食量を減らしていけるよう今後も取り組んでいきたい。

(作成者名：伊藤 美幸 校務分掌等：給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲州市立 井尻小学校	校 長 名	土屋 弘明
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策緩和により食事での会話が可能になったものの、食事に楽しく会話ができない子どもがいる。 ・野菜・魚・牛乳などが嫌いな児童（偏食のある児童）が多くいる。 ・食への感謝の気持ちが薄く、給食を残してしまう児童がいる。

実 践 名	「わ食」、できていますか？
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が3つの「わ食」を意識して生活することで、残さず食べる自分や環境に配慮した食生活を送ることができる自分の有用感を高める。 ・みんなでごはんを食べることの楽しさを知り、食への意欲を高める。
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物時に「手前取り」をする家庭の割合4割以上 ・「給食が楽しい時間である」と回答する児童の割合9割以上
実施予定日 ・実施予定期間	令和5年 2学期～12月末
対 象	全校児童
指導場面	学級活動 給食の時間
指 導 者	給食主任 各担任
具 体 的 な 内 容	
<p>3つの「わ食」 「和食」栄養バランスの整った食事、「輪食」団欒のある食事、「環食」環境に配慮した食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期当初に給食主任が各クラスを回り「わ食」についての話をし、わ食の共通理解を図る。 ・2学期中にバランスのとれた食事[和食]について、生産にかかっている手間について[環食]、食品ロスについて[環食]等の動画視聴を行う。 ・担任が主体となって、給食中の会話を促す。[輪食] ・2学期当初と2学期末に全校児童にアンケートをとり、結果を比較検討し、食生活についての意識や実践の変容を見る。 <p>【アンケート内容（一部）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族でご飯を食べるとき、お話をしながら食べますか。 ・給食を残さず食べていますか。 ・給食の時間は楽しいですか。 ・「まごわやさしい給食」は好きですか。 ・おうちの人は、賞味期限などを気にして、食品を奥のほうから取ることがありますか。 	
評価方法	グーグルフォームにて行うアンケート結果から、数値の評価を行う。

(作成者名 天野 ねいろ 校務分掌等 給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲州市立 井尻小学校	校 長 名	土屋 弘明
-------	------------	-------	-------

実 践 名	「わ食」, できていますか?
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が3つの「わ食」を意識して生活することで, 残さず食べる自分や環境に配慮した食生活を送ることができる自分の有用感を高める。 ・みんなでご飯を食べることの楽しさを知り, 食への意欲を高める。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物時に「手前取り」をする家庭の割合 4割以上 ・「給食が楽しい時間である」と回答する児童の割合 9割以上
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物時に「手前取り」をする家庭の割合 84.4% 追質問「賞味期限が近く安くなっているものを買う」家庭の割合 19.5% ・給食の時間について肯定的な回答をする児童の割合 97.3% (アンケート)
実施日 ・実施期間	令和5年 2学期～12月末
対 象	全校児童
指導場面	学級活動 給食の時間
指 導 者	給食主任 各担任
具 体 的 な 内 容	
<p>3つの「わ食」</p> <p>「和食」栄養バランスの整った食事, 「輪食」団欒のある食事, 「環食」環境に配慮した食生活</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2学期当初に給食主任が各クラスを回り「わ食」についての話を行い, わ食の共通理解を図る。 ・2学期中にバランスのとれた食事 [和食] について, 生産にかかっている手間について [環食], 食品ロスについて [環食] 等の動画視聴を行う。 ・担任が主体となって, 給食中の会話を促す。 [輪食] ・2学期当初と2学期末にのアンケートの結果を比較検討し, 食生活についての意識や実践の変容を見る。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・給食が「楽しい」と答えた児童が 69%から 84.4%へ, まごわやさしい給食が「とても好き」と答えた児童は 33.8%から 46.8%へと, 数値が上がった。 ・「棚の奥の方から商品を取る」人の割合が, 18.3%から 15.6%に減少した。 ・2学期当初に各クラスで自作の「わ食」についてのスライドを見せ, 「和食」のバランスの良さ, みんなでご飯を食べることの楽しさ, 身近な食品ロスについて学ぶことができたことで, 数値の上昇が見られたと考えられる。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「わ食」のスライドを見せた直後には一時的に給食の時間の残量が減ったが, 継続的に行うことはむずかしかった。食への感謝の気持ちを忘れずに, 苦手なものに少しずつでもチャレンジしていけるよう声かけをする。 ・「環食」については家庭に委ねる部分も多かった。日頃から環境への負荷を子どもも意識できるよう教師が促し, 家庭に伝えていけるとよいと思う。

(作成者名 天野 ねいろ 校務分掌等 給食主任)

(様式1 計画書)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	笛吹市立石和南小学校	校 長 名	坂野 修一
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

本校児童は、給食の時間をとても楽しみにしている。しかし、コロナ禍の3年間で前を向いて黙食することを求められてきたため、おいしいものを食べる楽しさは知っていても、給食で顔を見合わせて会話を楽しんだ経験が乏しい。机を向かい合わせて楽しく食事をするには、そのためのルールを学ぶ必要がある。正しいルールを知った上で楽しく会食（話食）できる児童を育てていきたい。

実 践 名	会食（話食）って楽しいね。
目 標	・正しいマナーを知って、楽しく会食（話食）する子どもを育てる。
目標指標と数値	・食事の仕方と会食（話食）の仕方を学ぶ。 マナー指導実施回数 3回
実施予定日 ・実施予定期間	・7月～12月 ・7月と12月にアンケート実施
対 象	全校
指導場面	学級活動，生活科，家庭科，給食指導
指 導 者	学級担任・学校栄養士・給食主任・司書
具 体 的 な 内 容	
○事前アンケート（7月実施） ・給食について ○内容 ・食事のマナーについて，保健給食委員会が寸劇やクイズを通してビデオ放送で全校に伝える。 ・日本的なマナーを守って話食をすることでより給食の時間が楽しく充実することを実感できるようにする。 ・給食時に栄養士が教室を巡回し，好ましい食事の仕方について指導を行う。 ・図書の日や朝読書の時間を活用し，関連した絵本を読み聞かせたり，紹介したりする。	
評価方法	・行動観察 ・アンケート

(作成者名 野沢 恵 校務分掌等 給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	笛吹市立 石和南小学校	校 長 名	坂野 修一
-------	-------------	-------	-------

実 践 名	会食（話食）って楽しいね。
目 標	・正しいマナーを知って、楽しく会食（話食）する子どもを育てる。
目標指標・数値	・食事の仕方と会食（話食）の仕方を学ぶ。 マナー指導実施回数 3回
実践後の数値 （評価方法）	・行動観察…各クラスで指導後、マナーの意識が変わった様子が見られた。特に話題や身支度に変化が見られた。 ・保健給食委員会が作成したビデオの視聴後にアンケートを実施した。マナーについてすべてのクラスで意識が向上した。特に低学年は10のマナーがほぼ100%守れるようになっている。 ・アンケート…6月・2月に実施
実施日 ・実施期間	・8月～11月 各クラスマナー指導 ・6月, 2月にアンケート実施
対 象	全校
指導場面	学級活動, 給食指導
指 導 者	学級担任・学校栄養士・給食主任・給食委員会担当
具 体 的 な 内 容	
<p>○事前アンケート（7月実施）</p> <p>○アンケートの結果、全校で食事のマナーについての意識が低いことがわかったため、夏休み中に職員で話し合い、「石和南小食事のマナー10か条」を次のように決めた。</p> <p>1. みんなそろって「いただきます」 2. 身支度をきちんとしよう 3. 背筋をピン！お茶碗、汁椀手に持って 4. 「おいしくない」「これ嫌い」は言わないよ 5. 口に食べ物が入っているときは話しません 6. 食事にふさわしいお話をしよう（きたない話、残酷な話、不愉快になる話はNG 7. お話は小さい声で 8. 正しい箸の使い方を覚えよう 9. 嫌いなものも一口は食べる 10. みんなそろって「ごちそう様」</p> <p>○2学期、給食の時間を使って、栄養教諭と給食主任が全校を訪問し、「食事のマナーはどうして必要か」について考えさせてから、「石和南小食事のマナー10か条」について指導。</p> <p>○「石和南小食事のマナー10か条」と「正しい箸の使い方」について各クラスで掲示物を配布し、各学級担任からも再度指導。</p> <p>○2学期の指導がどれくらい身についているかを確認、忘れていたことは再度意識してもらうために、「石和南小食事のマナー10か条」についての動画を、保健給食委員会で児童が中心となって製作。寸劇仕立てのクイズ形式で、各クラス、楽しくマナーを学習してもらう。</p> <p>○事後アンケート（1月実施）</p>	
成 果	7月に実施した事前アンケートでは、食事に関する正しいマナーを理解できている児童は全校の10%程度であった。それを受けて、食事のマナー10か条を作成し、指導したことで着実に意識の変化が見られた。1月の動画クイズでは細かいところまでよく見てマナーの良いところや悪いところを指摘できる児童が多く、指導の成果が確認できた。
今後の課題	・低学年では指導の成果が出やすいが、高学年になると、わかっているもできないという児童が増えている。食事のマナーの必要性和、感謝の思い、周りへの配慮などを継続して丁寧に指導していくことが大切である。

(作成者名 野沢 恵 校務分掌等 給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	笛吹市立御坂東学校	校 長 名	渡辺 政子
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・給食を食べ終わる時間に大きな差があり、それが給食を食べる量の差にもつながっている。 ・早食いの児童に対しては声掛けなどの働きかけを行っているが、なかなか改善されていない。 ・肥満傾向の児童が全校で22.8%おり、中には高度肥満の児童もいる。 ・肥満傾向の児童で早食いの傾向があるものが多い。

実 践 名	かむことだいすき ～よく噛んで健康になろう～
目 標	かみかみセンサーを用いた指導を通して、児童に噛むことの大切さを知ってもらい、噛むことを意識して食べる習慣を身に付けさせる。
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"> ・指導後に自分の噛む回数を把握している児童 6割以上 ・指導後に噛む回数が増加した児童 6割以上 ・指導後によく噛んで食べることが大切だと「とても思う」「まあまあ思う」児童 9割以上 ・指導後によく噛んで食べることの意義を理解している児童 6割以上
実施予定日 ・実施予定期間	7月～12月
対 象	全校
指導場面	給食の時間
指 導 者	学級担任、栄養教諭、給食主任

具 体 的 な 内 容

<p>① アンケートを行い、指導前の「噛むこと」への意識を調査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いつも1口何回くらい噛んでいますか 2. よく噛んで食べることは大切だと思いますか。 <p>② かみかみセンサーで白米1口あたり何回噛んでいるかを調査する。</p> <p>③ 噛むことの大げさについての指導を行う。</p> <p>④ アンケートを行い、指導後の「噛むこと」への意識変容を調査する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. いつも1口何回くらい噛んでいますか 2. よく噛んで食べることは大切だと思いますか 3. なぜよく噛むことが大切だと思いますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導前後に行うアンケートから、児童の変容を見る。 ・指導前後の給食の食べ方を観察し、児童の変容を見る。
評価方法	

(作成者名 橘田 美紀子 校務分掌等 給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	笛吹市立御坂東小学校	校 長 名	渡辺 政子
-------	------------	-------	-------

実 践 名	かむことだいすき ～よく噛んで健康になろう～
目 標	かみかみセンサーを用いた指導を通して、児童に噛むことの大切さを知ってもらい、噛むことを意識して食べる習慣を身に付けさせる。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> ・指導後に自分の噛む回数を把握している児童 6割以上 ・指導後に噛む回数が増加した児童 6割以上 ・指導後によく噛んで食べることが大切だと「とても思う」「まあまあ思う」児童 9割以上
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導後に自分の噛む回数を把握している児童 12.5%→91.4% ・指導後に噛む回数が増加した児童 8.6% ・指導後によく噛んで食べることが大切だと「とても思う」「まあまあ思う」児童 98.3%
実施日 ・実施期間	実態把握：令和5年10月、令和5年11月 指導：令和5年11月1日(水)、令和5年11月2日(木)
対 象	全校
指導場面	給食の時間、発育測定の時
指 導 者	学級担任、栄養士、給食主任
具 体 的 な 内 容	
<p>① アンケートを行い、指導前の「噛むこと」への意識を調査した。</p> <p>1. いつも1口何回くらい噛んでいますか 「30回以上」1.8% 「20～30回」0% 「10～20回」10.7% 「10回未満」0% 「わからない」87.5%</p> <p>2. よく噛んで食べることは大切だと思いますか。 「はい」100.0% 「いいえ」0%</p> <p>② かみかみセンサーを用いたり、児童自身が数えたりして白米1口あたり何回噛んでいるかを調査した。</p> <p>③ 発育測定の間を利用して、給食主任が噛むことの大切さについての指導を行った。</p> <p>④ アンケートを行い、指導後の「噛むこと」への意識変容を調査した。</p> <p>1. いつも1口何回くらい噛んでいますか 「30回以上」29.3% 「20～30回」29.3% 「10～20回」24.1% 「10回未満」8.6% 「わからない」8.6%</p> <p>2. よく噛んで食べることは大切だと思いますか 「とても思う」72.4% 「まあまあ思う」25.9% 「思わない」0% 「わからない」1.7%</p> <p>⑤ 指導後、栄養士が給食の時間に再度「かむこと」についての指導を行った。</p>	
成 果	指導を通して、自分の噛む回数を把握する児童が増えたり、よく噛んで食べることが大切だと思っている児童が9割を超えたりしたため、指導によって噛むことへの意識を高めることができた。
今後の課題	指導後に噛む回数が増えた児童が少なかったため、意識の変容に加え、行動を変容させるような指導が必要であると感じた。 本実践ではかみかみセンサーを効果的に使用できなかったため、どのような指導で用いれば効果的な活用になるのか考えていきたい。

(作成者名 橘田 美紀子 校務分掌等 給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	早川町立早川中学校	校 長 名	芦沢 文明
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

全校生徒18名と少人数の学校です。全校生徒、教職員と一緒に給食を食べています。給食の時間には、給食一口メモを給食体育委員会の生徒が全校に向けて発表をしています。残食を出さないように生徒がお代わりに回っている様子が見られます。環境に配慮した行動ができています。中学校では、教科ごとのに指導者が代わり、食に関する内容でも単発になってしまいます。そこで、教科を横断して食教育を進めていこうと考えました。

実 践 名	私たちにできるSDGs～教科と関わって～
目 標	社会科と家庭科の授業の中で食に関する指導を行う。
目標指標と数値	教科の中で食に関する指導を行う回数を増やす。目標回数3回を目指す。
実施予定日 ・実施予定期間	2学期から3学期
対 象	1年生と全校
指導場面	社会科と家庭科の授業 給食集会
指 導 者	社会科教諭 家庭科教諭 栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>① ・社会科の授業では、地域のよりよい発展を目指して持続可能な社会を実現するための取り組み「SDGs」の事を知り、どのような取り組みが行われているか知る。特定の輸出品に頼るアフリカの経済の単元の中では、モノカルチャー経済の課題から「フェアトレード」という取り組みが世界で広がっていることを知る。</p> <p>・社会科の授業を受けて、家庭科の授業では、「持続可能な食生活をめざして」や「持続可能な社会」の単元の中で、暮らしの中のマークで環境に配慮しているマークなど、実物を見て知り消費者として生活に活かせるように考えさせる。</p> <p>② ・家庭科の授業の「地域の食文化」の単元の中で、郷土料理や地産地消を学習し、山梨県や早川町内で採れる食材や加工している食材、作られている料理などを調べる。実際に調べた食材や料理を考えて、給食として登場させる。</p> <p>・給食集会では、給食体育委員会の活動として学校給食の始まりから給食の歴史を振り返り、1年生が家庭科の授業で考えた料理を紹介して、実際の給食としていただく。</p>	
評価方法	教科の中で食に関する指導の授業実施回数 給食集会の開催

(作成者名 芦沢 芳美 校務分掌等 栄養教諭)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	早川町立 早川中学校	校 長 名	芦沢 文明
-------	------------	-------	-------

実 践 名	私たちにできるSDGs～教科と関わって～
目 標	社会科と家庭科の授業の中で食に関する指導を行う
目標指標・数値	教科の中で食に関する指導を行う回数を増やす。目標回数3回を目指す。
実践後の数値 (評価方法)	・国語科 1回 ・社会科 1回 ・家庭科 1回 ・給食時間 1回
実施日 ・実施期間	国語科 1学期 社会科・家庭科 2学期 給食時間 3学期 (委員会の時間2学期から3回)
対 象	国語科・給食時間 全校 社会科・家庭科 1年生
指導場面	各教科の授業時間 委員会の時間 (給食集会)
指 導 者	国語科教諭・社会科教諭・家庭科教諭・栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> ・国語科：3年生「説得力のある、構成を考えよう」の単元でSDGsを題材でスピーチをした。 ・社会科：1年生「アフリカ州、特定の輸出品に頼るアフリカの経済」の単元の中で、モノカルチャー経済の課題から「フェアトレード」という取り組みが広がっていることを知る。そこから、自分たちに出来る取り組みを考える授業を行った。 ・家庭科：1年生社会科の授業後に家庭科の授業では「持続可能な社会」の単元で「エシカル消費」について理解し考える授業を行った。エシカル消費の中で、エコ・ロハス・フェアトレードなどについて学習し、自らエシカル消費を主体的に取り入れていけるように学習した。 ・委員会の時間には、夏休みから給食週間に向けて、地域の食材を全校へ知らせるために調べ学習を進めた。2学期の委員会の時間には、タブレットを使い発表できるように編集を行った。委員会の生徒は、1人1食材を調べ、その食材を使った料理を考えた。その料理を給食に取り入れ実際に給食として全校で食べた。給食集会は、感染症の影響もあり、人数がそろわずに実施できなかったため、全校で給食を食べている調理室へ掲示して発表した。 	
成 果	食育に関わって、普段の学習では単発になりがちだが、教科横断的に授業ができたことが成果である。また、委員会の時間を使い地域の食材を深く調べ、生徒が考えた料理が給食へ取り入れられたことがよかった。
今後の課題	食育は、どの教科でも取り入れていけるが、担当の先生方の食への関心によって、授業へ組み込めるか、そうでないかが変わってくる。食に関する指導年間計画には、特別活動や教科で食を取り入れやすい単元を洗い出しているので、その活用を進めていくのが課題になってくる。

(作成者名 芦沢芳美 校務分掌等 栄養教諭)

(様式1 計画書)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	南部町立富沢小学校	校 長 名	高野 真一
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none">・令和5年度新体力テストでの朝食の摂取状況調査の結果によると、朝食を「毎日食べる」と答えた児童の割合は、89.4%であった。・朝食をなかなかとれない児童には、朝起きるのが遅くて、朝食がとれない場合や家庭の事情でなかなか準備が整わない状況の家庭の様子が見受けられる。・朝食は食べてきてはいるものの、主食のみといった児童もみられる。
--

実 践 名	朝食摂取率100% ～栄養バランスのよい朝食を目指して～
目 標	<ul style="list-style-type: none">・朝食を毎日食べて登校する児童を増やす。・朝食への関心を高め、毎日朝食を食べようという意欲を高める。
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none">・朝食の大切さについて指導する回数(学期1回)・朝食を毎日食べる児童100%を目指す。
実施予定日 ・実施予定期間	令和5年5月～令和6年2月
対 象	全校児童及び保護者
指導場面	学級活動 給食の時間 保健給食委員会 朝活動の時間 給食試食会 家庭科
指 導 者	栄養教諭 担任 司書 養護教諭
具 体 的 な 内 容	
○食に関する年間指導計画に基づき、栄養教諭が作成した指導資料や食育だよりを活用し、「朝ごはんの大切さ」についての理解を深める。(担任・栄養教諭) ○朝読書の時間を利用して「早寝・早起き・朝ごはん」に関する本の紹介(司書・保健給食委員会) ○保健給食委員会での集会を通じた啓発活動「早寝・早起き・朝ごはん」 【家庭との連携】 <ul style="list-style-type: none">・給食試食会や学年懇談会での保護者への啓発(栄養教諭・養護教諭)・夏休みに向けて、簡単に作れる朝食のレシピを家庭に配布(食育ライブラリーに掲載されているもの)・「おうちの人といっしょに朝ごはんをつくってみよう(おすすめメニュー・家庭生活での工夫など)募集と紹介・早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣に関する指導「さわやかグッドモーニング!カード」の実施 【地域との連携】 <ul style="list-style-type: none">・プロアスリートによる出張講座「ごはんの力」において朝ごはんの大切さについて講話を聞き、朝食の大切さを知り、毎日食べようとする意欲を高める。	
評価方法	朝食摂取状況の調査、集会や取組等の感想と変容の見取り

(作成者名 熊谷 好恵

校務分掌等 養護教諭・給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	南部町立富沢小学校	校 長 名	高野 真一
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	朝食摂取率100% ～栄養バランスのよい朝食を目指して～
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べて登校する児童を増やす。 朝食への関心を高め、毎日朝食を食べようという意欲を高める。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> 朝食の大切さについて指導する回数（学期1回） 朝食を毎日食べる児童100%を目指す。
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> 朝食における指導した回数（1学期：栄養教諭の作成した指導資料や給食だより、給食試食会・保健集会、夏休み：県リーフレットの活用、2学期：個別懇談での資料配付、3学期：一日入学・学級活動での授業・紙芝居・本の紹介） 「朝ごはんを食べていますか」毎日食べると答えた児童 5月：89.4% 11月：90.8%
実施日・実施期間	令和5年5月～令和6年2月
対 象	全校児童及び保護者
指導場面	学級活動 給食の時間 保健給食委員会 朝活動の時間 給食試食会 家庭科
指 導 者	栄養教諭 担任 司書 養護教諭 給食主任
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> 食に関する年間指導計画に基づき、5月に栄養教諭が作成した指導資料や食育だよりを活用し、「朝ごはんの大切さ」について担任より児童へ指導を行った。 「早寝・早起き・朝ごはん」をテーマにした保健集会を開催した。 早寝・早起き・朝ごはんの本校独自のオリジナルキャラクターを募集した。 給食週間に合わせ、先生方から朝食についてのひとことメッセージを掲示した。 学級活動の時間において栄養教諭から「朝ごはんの大切さを知ろう」の授業実践（4年生） 朝読書の時間に紙芝居・絵本（早寝・早起き・朝ごはんの啓発）の紹介。（保健給食委員会） <p>【家庭との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食試食会（栄養教諭）や学年懇談会において保護者向けに児童の実態についての資料を作成した。（養護教諭） 県保健体育課のホームページに掲載されている食育ライブラリーの資料を各家庭に配布し、夏休みに向けて、簡単に作れる朝食のレシピを紹介した。 「おうちの人といっしょに朝ごはんをつくってみよう」と題し、実際におうちの人と作った料理を掲示し、紹介した。（学校だよりに掲載） 夏休み・冬休み明けに、「早寝・早起き・朝ごはん」についての「さわやかグッドモーニング！カード」へ記入し、生活習慣の改善につなげた。 <p>【地域との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> プロアスリートによる出張講座「ごはんの力」において食事の大切さやプロアスリートの朝ごはんについて紹介していただいた。 	
成 果	<p>「朝ごはんを食べていますか」毎日食べると答えた児童が5月は89.4%であったが、11月は90.8%と上昇した。</p> <p>様々な取組から「朝ごはんを毎日食べていきたい」「朝ごはんをバランスよく食べていこうと思った」などという感想が聞かれ、朝食摂取への関心・意欲につながったものと思われる。また、栄養教諭と連携し、企画を考え、長期休業中におうちの人と朝食作りをする機会を設けたことで、朝食に関心をもつきっかけになったと思われる。</p>

<p>今後の課題</p>	<p>1学期は「朝ごはんを食べますか」という問いに「毎日食べない」と答えた児童が1名いたが、2学期は0名となった。しかし、「時々食べない」と答える児童が5月と11月で固定化しつつある。朝起きて食欲がない（寝る前に間食をしてしまう、寝るのが遅い、食が細いなどが考えられる）ことや起きるのが遅いため、学校までの時間が短く、朝食を食べる時間がないことが考えられる。また、休日は遅くまで寝ていることで朝ごはんを食べないという様子もみられている。今後もまずは朝食摂取率100%を目指し、全校児童が毎日、朝食摂取して登校できるように、家庭・地域と連携していきたい。そのうえで、育ち盛りの子どもには、朝食を毎日食べることに加え、バランスのよい朝食摂取についても指導していく必要があると考える。</p> <p>起きる時刻が遅いことや休日や長期休業中において、生活リズムが崩れることにより朝食欠食につながっていくことがみられるため、引き続き、早寝早起きといった規則正しい生活習慣の定着も図っていきたい。</p>
--------------	--

(作成者名 熊谷 好恵 校務分掌等 養護教諭・給食主任)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	上野原市立上野原西中学校	校 長 名	森 卓弥
-------	--------------	-------	------

児童生徒の課題

生徒の環境として、登下校中に田畑の周辺や給食センターの敷地内を通過して登下校している生徒が多く、身近に旬の野菜を目にしたたり、給食センターで働いている人の様子が見えたりしている。令和3年度より、上野原市で「SDGsについて考える日給食」を実施しており、食に関心を高められるよう、食品ロスや地産地消などについて伝えてきた。給食の残量は減ってきたが、昨年度の食育推進一校一実践では提出率が大幅に下がってしまった。

実 践 名	令和5年度学校給食アイデア料理コンテスト						
目 標	①生徒が考えた料理を給食で提供することで、学校給食への関心を高める。 ②夏休みの課題として取り組み、料理コンテストを通して、家族と一緒に料理を作ったり、調理法を学んだりする機会とする。						
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食に適した献立であり、栄養や色合いなどが考慮されているか。 ・ネーミングや食材など工夫をしているか。 ・提出割合の増加 						
		H30	R1	R2	R3	R4	R5 (目標)
	生 徒	58.7%	65.5%	52.1%	72.7%	52.9%	80.0%
教職員	4人	0人	3人	0人	0人	5人	
実施予定日 ・実施予定期間	<ul style="list-style-type: none"> ・7月18日(火)委員会活動で応募テーマの決定 ・7月20日(木)コンテスト用紙配布 ・8月23日(水)コンテスト用紙回収 ※2学期以降に最優秀作品を給食で提供する。						
対 象	全校生徒 教職員						
指導場面	給食委員会の活動時間等						
指 導 者	給食主任 米山恵里奈 栄養教諭 大神田志保						
具 体 的 な 内 容							
<ul style="list-style-type: none"> ・7月18日(火)委員会活動で応募テーマの決定 ・7月20日(木)コンテスト用紙配布 ・8月23日(水)コンテスト用紙回収 ・2学期の給食委員会の活動時間に各賞を選定する。 ・若葉祭文化の部で入賞作品の展示をする。 ・2学期以降に最優秀献立を学校給食で提供する。 募集テーマ：「 かぼちゃ 」 募集内容：①料理名 ②料理のアピールポイント ③材料 ④分量(4人分程度) ⑤作り方 ⑥完成写真またはイラスト ⑦参考資料							
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・最優秀賞1品、優秀賞1品、アイデア賞、ナイスネーミング賞を各2品を選定する ・提出数の集計 						

(作成者名 大神田志保

校務分掌等 栄養教諭)

令和5年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	上野原市立 上野原西中学校	校 長 名	森 卓弥
-------	---------------	-------	------

実 践 名	令和5年度学校給食アイデア料理コンテスト						
目 標	①生徒が考えた料理を給食で提供することで、学校給食への関心を高める。 ②夏休みの課題として取り組み、料理コンテストを通して、家族と一緒に料理を作ったり、調理法を学んだりする機会とする。						
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食に適した献立であり、栄養や色合いなどが考慮されているか。 ・ネーミングや食材など工夫をしているか。 ・提出割合の増加 						
		H30	R1	R2	R3	R4	R5 (目標)
	生 徒	58.7%	65.5%	52.1%	72.7%	52.9%	80.0%
	教職員	4人	0人	3人	0人	0人	5人
実践後の数値 (評価方法)	<ul style="list-style-type: none"> ・生 徒：63.6% ・教職員：2人 						
実施日 ・実施期間	<ul style="list-style-type: none"> ・7月18日(火)委員会活動で応募テーマの決定 ・7月20日(木)コンテスト用紙配布 ・8月23日(水)コンテスト用紙回収 ※2学期以降に最優秀作品を給食で提供する。						
対 象	全校生徒 教職員						
指導場面	給食委員会の活動時間等						
指 導 者	給食主任 米山恵里奈 栄養教諭 大神田志保						
具 体 的 な 内 容							
<ul style="list-style-type: none"> ・7月18日(火)委員会活動で応募テーマの決定 ・7月20日(木)コンテスト用紙配布 ・8月23日(水)コンテスト用紙回収 ・2学期の給食委員会の活動時間に各賞を選定する。 ・若葉祭文化の部で入賞作品の展示をする。 ・2学期以降に最優秀献立を学校給食で提供する。 募集テーマ：「 かぼちゃ 」 募集内容：①料理名 ②料理のアピールポイント ③材料 ④分量(4人分程度) ⑤作り方 ⑥完成写真またはイラスト ⑦参考資料							
成 果	生徒の提出率の目標は、一昨年度が72.7%だったので、その数値を超えることを目標として80%に設定したが、届かなかった。一昨年度から、各学年の夏休みの課題一覧に入れたため、提出率が上がると思われたが、昨年度よりは多くなったものの、63.6%にとどまった。 提出された献立を見ると、実際に作って、写真を添付している献立が多いことから、家族と話をしながら献立を考え、実際に料理をしていることがう						

かがえる。献立作りを通して、家族と食について話すきっかけになったのではないか。また、献立のネーミングにこだわった作品が多くなってきた。

学園祭当日に結果を掲示し、後日、表彰を行った。



**11月28日(火) 給食で実施
最優秀賞「ポティグラ」**

グラタンはフランス語。かぼちやをフランス語で「ポティロン」という。かぼちやのグラタンなので、「ポティグラ」と名付けた。



今後の課題

- ・より多くの生徒が参加するように声かけをしていきたい。
- ・教職員にも参加してもらえるよう声かけをしたい。
- ・調理員と生徒が交流できるような機会にしたい。
- ・回収時期と学園祭の準備期間が同じなので、給食委員会で選定作業をするために集まる時間を確保しなければならない。

(作成者名 大神田志保 校務分掌等 栄養教諭)